

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

第1回委員発言まとめ



交通

- 行きたい場所にいけない
- 自転車で自由に動けない
- 大きいバスに人が乗っていない バスのミスマッチ
- 公共交通機関の充実
- 子どもの習い事の送迎で親が疲弊している。送迎ができない家庭はクラブ活動ができない？

環境

- 自然がないまち
- 健康に悪いまち
- よそものに冷たいまち
- 公園、緑、イルミネーション、デートする場所、チルい場所、映える場所がない、公園環境が整備されていない
- 残りたいと思える大学や収入面で都会との格差がある
- トキメク場所やトキメクショップがない
- コミュニティに入れにくい若者も多い

行政

- 行政サービスを受けているという感覚があまりない
- 公共施設が使いにくい
- 町内会の活用ができていない



自分 ・ まち

- ・自己実現できるまち
- ・ウェルビーイング
- ・個人が輝けるまち
- ・帰ってきたくなるまち
- ・未来を感じられるまち
- ・魅力を感じられる仕組みができていくまち

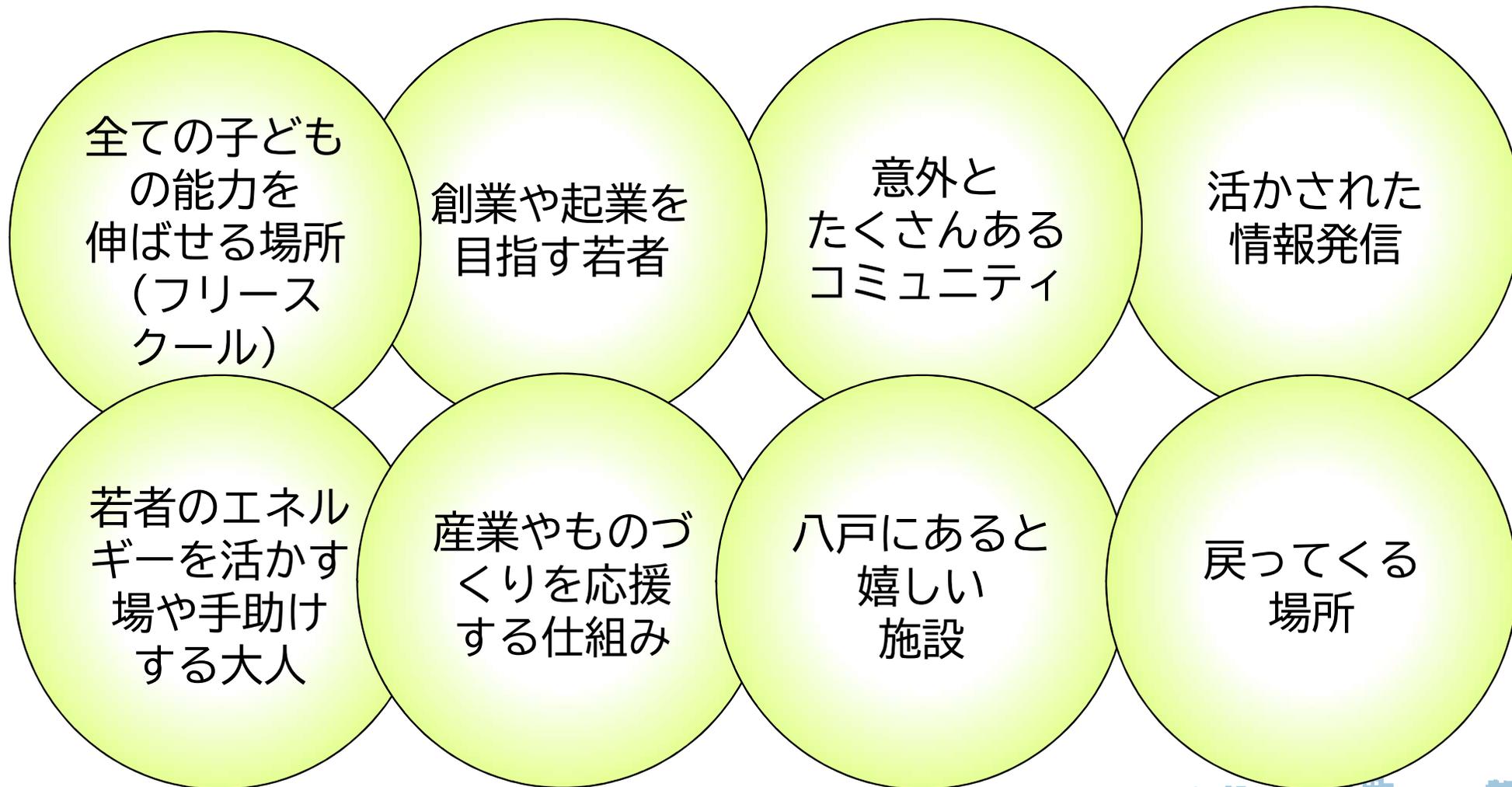
仕事

- ・働く場所、収入が安定している
- ・魅力的な企業がある

暮らし

- ・治安がよく健康で暮らせるまち
- ・助け合えるまち
- ・非常時と平時がつながるまち
- ・カルチャーが生まれるまち
- ・トキメキがあるまち
- ・あちこちでおもしろいことが起きているまち
- ・人とのつながりがあるまち
- ・子どもは一人でもうろちよろできるまち

課題と未来像をつなぐもの



〇〇な人 (委員の発言からターゲットになりうる人物像)

- ・ 都会に行くと帰ってこない若者
- ・ 種差海岸や蕪島などにあまり行ったことのない学生や小中高生
- ・ 自転車に乗らない小中学生、乗せない学校
- ・ 送迎に疲弊している保護者
- ・ コミュニティに入れない20代
- ・ 自分にピンポイントの行政サービスがないと感じる若者
- ・ 県外で学びや知識を得て、成長して地元に戻ってくる学生
- ・ 消費する楽しさより、人と人との関わりの中に楽しさを見出す人
- ・ 転勤等で初めて八戸に来た人
- ・ 貴重な体験に機会を失っている子ども (自転車などの移動の制限)
- ・ 夢を叶えるために子どもたちがやりたいことを意外とよくわからない保護者 (規制や制限などにより)
- ・ 八戸の既存の施設の魅力に価値があると思う市民、施設に満足していない市民
- ・ 八戸にハマる人、ハマらない人
- ・ 経済的に問題がある家庭
- ・ 19歳を起点として変化していく若者 (進学、就職など)

